

第2回校内研修 授業整理会グループ発表

「生徒に力をつけさせるにはどのような指導が必要なのか」

グループ1

自分たちの班では、まず前時の段階から仕込めることがあるのではないかなという意見が出ました。4つの写真で出てきた場所以外にも、今回自分のことを話していくのであれば、自分の思い出を先に仕込むなど、そういうこともありなのかなと思いました。

ペアで話し合う場面で、使える表現を教え合うところが見られたが、そのときにこれまでに習ってきた単語であるとか、作文するにあたって使える熟語をまとめたものが自分のタイミングで見られるようにすると、表現を増やせるようになるのかなと思いました。

マッピングをしている場面では、喋りながらマッピングをしていたので、事前にマッピングをしておいてから喋る方がよいのかなと思ったが、久保先生はもしかしたら聞かれたことに対して即興で答えてその後書くというのをねらわれたのかなという風なことを考えていた。国語科の私は根拠を挙げて喋るということを目的に授業をいつもしているが、やっぱり人から聞かれて自分の思いをちゃんと即興で具体的に例を挙げて言えるようになって欲しいなどと思いました。そのためには、日ごろから英語の授業を含めて対話をするという時間を確保しておくということ。

4 ダイアログ

1 前時 (思い出)

- ① 自分が行った場所の写真を用意する
- ② 自分の思い出についてマッピングする

2 既習単語・使える熟語 } まとめたもの
⇒ 自分のタイミングで使えるように

3. 即興英語力!!

writing

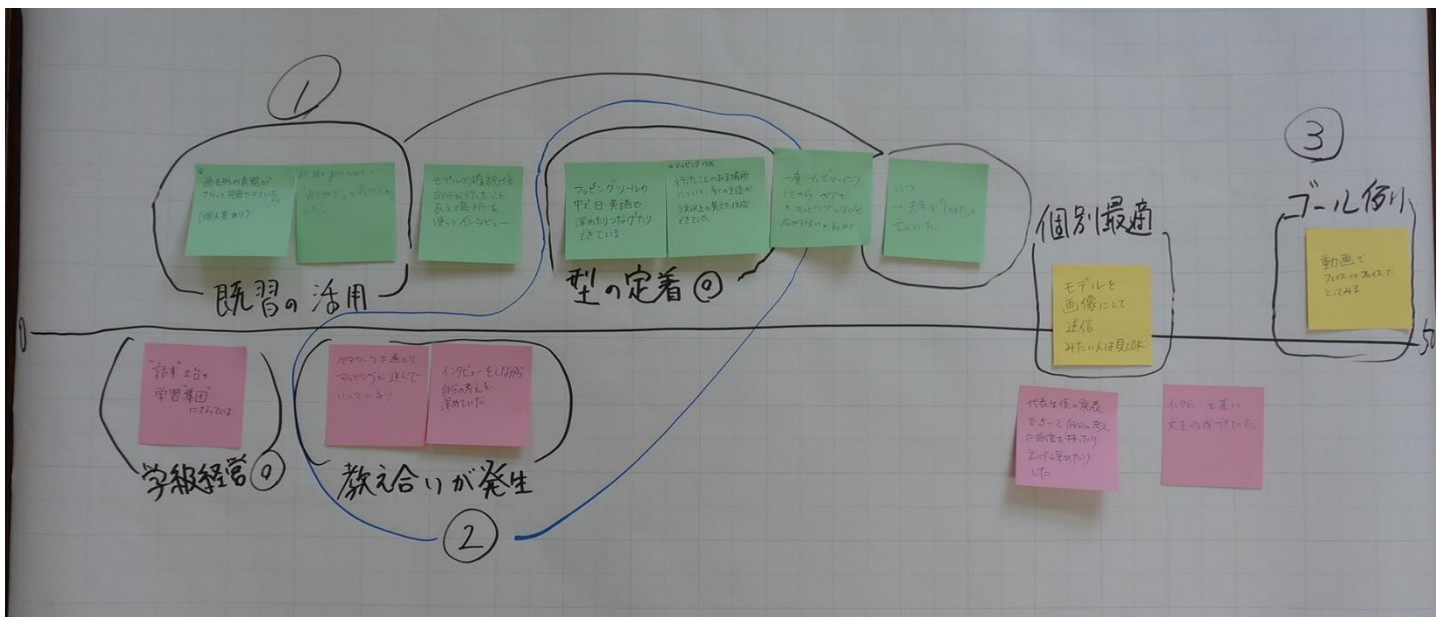
50

グループ2

日頃の学級経営が、ペアワークであったり話しやすい雰囲気をつくったりすることがあったのが前提のもとで、今回既習のところで見ると、go-wentの言い換えであったり、また後半部分の「去年」というのをlastと言ったりする生徒がいたりするところが、自分も国語の授業の中でよく最初に既習をとにかく確認してから教えていくということが多いが、授業の途中途中で既習が絡んでいくという授業の方が、子どもたちが自分の考えを確信をもって発言できたり自信を持てるということにつながるということを感じたので、そこが今回の授業で自分はいいと思いました。

今日の授業の中で、教え合いのところが1年2組はよくしゃべっていたと思います。ただ、話し合い活動、ペアワーク、グループワークをしようとなったときに沈黙をしてしまう学級、グループ活動というのもやはりあることは現状かなと思うので、今回はマッピングというのを通して、今までやったことがあるから喋りやすいとか書きやすいというところはあったかなと思うので、話し合いの土台や型というのがある程度あって、そこでやっとな話し合い、教え合いができていけるのかなというのを感じました。

力を付けるというところで、板書に残し過ぎていてというところがあったが、個別最適な学びとしては必要な子もいるので、(学習用端末の)資料置き場などにヒントカードみたいなものを入れておいて、見たい子は見てもいいよというようなことも良いと思うし、力を付けるということで、最初に動画を撮って最後になにも見ずに喋ってもらうというような設定があるとより頑張るのかもしれないという意見が出ました。ただ、本時のねらいが「書く」なのですこしづれるかもしれませんが、そのような意見も出ました。



グループ3

授業の流れとして、板書内の目標が「書くことができる」だったので、板書のところに単語とかがあるとその範囲でしかマッピングが広がらない、聞くことも、質問する方も where とか what でしか聞けないのでマッピングが一行になって、これで書くんだというものしかつながってなかったの、もうちょっと質問で自由度を持たせて、日本語で会話するみたいに「誰と行ったの?」とか「どこに行ってどうだったの?」というような、生徒の中で「興味のあることをどんどん聞いていくんだよ」というようにしたら、自由度が広がって、いろいろなマッピングができるのではないかという意見が出ました。

マッピングなどのこういった思考ツールというものの有用性というのは、いろいろな先生方で共有していけばいいかなと。自分も今数学で合同の証明などがあって、久保先生のこのキーワードとキーワードを何でつなげばいいのかという言葉かけがすごくよくて、いろいろな教科でも思考ツールについては使っていけばいいなと思いました。

タブレットの使いどころということで話が出て考えてみたが、例えば単語を調べることが全部アシントン先生や久保先生に聞いて「これはどうや?」「これはどうや?」という風にするのではなく、自分でスペルを調べるくらいだったらタブレットの使いどころかなと思いましたし、マッピングを仮にタブレットでやって、それをみんなで共有すると、「あっ、他の人はこんなワードを使っているな」ということを踏まえて自分の作文ができるのではないかなと思いました。

板津中学校の1年生の課題はやっぱり自分で考えるということが少し弱くて、すぐに人に聞いてしまったりとか、先生方もすぐ「隣に確認して」とか「聞いて」ということが多いので、自分で考えたり、自分で探したり、過去のノートを見たりといった作業がもう少しあってもいいのかなと思いました。

